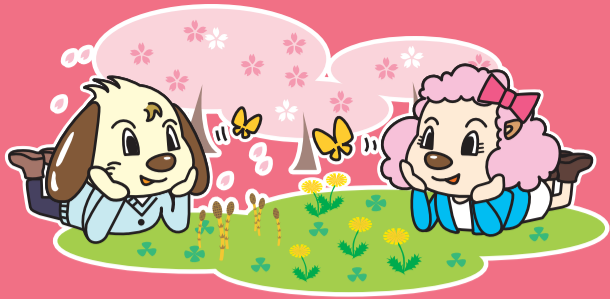


カナケン 4・5・6月号 健康定期便

新登場 カマヤミニ fit(フィット)、
ビューティシェイプストレッチャー、
ストレッチクッション、皮膚感覚サポーター
エアストレッチステッパー 他
話題の新商品満載でお届けします。 **税込価格**



もっと知りたい、
もっと伝えたい

もっと活用術

第5回
『米山式かっさボード』編

米山式かっさボードは、接触鍼として日本で愛される米山式イチョウ鍼と、中国の伝統療法・かっさ療法を組み合わせた接触鍼です。今回は、米山式かっさボードをカナケンと共に開発した、がくえんまえ鍼灸院の瀧川貴啓先生にお話を伺いました。



「気持ちいい」が治る力を呼び起こす。 病名・症状にかかわらず、「手を当てる事・声をかける事から」自然治癒力を手掛かりにして、 東洋医学の実力をもっと広く知ってもらいたい。

今、ディスプレイ接触鍼が必要なのはなぜか

「なぜ痛みはでるのか、痛みは何を伝えようとしているのか。まずは痛みの本質を知る必要があるのです」こう話すのは、奈良市登美ヶ丘にある『がくえんまえ鍼灸院』の瀧川貴啓先生。人は痛みを感じると「嫌だなあ」「どうして?」「悪い病気では?」など陰気なイメージを持つことがあります。一般的に多いこの悪い予感、はたして正解なのでしょうか。

「私の考え方としては、身体は意地悪で痛みを出現させている訳ではなく、実は身体が身体を守るため最悪を回避するために痛みを出すことによってブレーキを掛けているのだと。危険回避のためにブレーキをかける行為はむしろ

きた状態で、最後に駆け込んだ「気持ちよさ」という誰もが生まれながらに持ち合わせる感覚を羅針盤に総動員した生活を取り戻したとき、初めて東洋医学の実力が発揮されることもあります。

孔子が語った論語には、「七十にして心の欲する所に従えどりのをこえず。」「七十歳になると自分のしたいように行動しても人に迷惑をかけることは全くなかった」という件があります。正に気持ちよい生活を実践すればこのような心境に到達するのではないのでしょうか。「常に気持ち

身体の正常な判断なのです。つまり、痛みというサインが現れたらブレーキをかけ一旦停止し、青になるのを待つのが本来の正しい対処法なのです。そして痛みというブレーキが効いている間は同時にアクセルを吹かず様な危険な事はしないほうがよいのです。これが「無理をしない」、「無茶をしない」という東洋医学の知恵なのです。

さらに効率よく痛みを回復させるには「痛いことをしない」と同時に「気持ちのよい事をする」という対応が効果的です。そこで接触鍼のような気持ちのよい施術を穴や経絡という気の流れを感じながら行う訳です。すると、「気持ちがいい」と感じれば感じるほど自然治癒力が賦活され良循環が生まれてきます。また、日常生活でも、体調を崩す前の養生法として「気持ちよい生活」を心がけることが大切で、常日頃より接触鍼をポケットに忍ばせ、自身で施術を行うことで度々気

よい・他人にもよい・環境にもよい」このような環境負荷の少ない理にかなった21世紀型医療として東洋医学は最適だと思っています。

日常や臨床での使用例

接触鍼には無限の可能性を感じます。もともと小児鍼・接触鍼として米山式イチョウ鍼は、特に関西では愛好家の多いそして効果の高い施術方法です。さらに医療の歴史を紐解くと古来より世界中で、偶然刺さった木の棘や、事故による火傷が治癒効果を高めたり、手を当てるという行為が癒しとして頻繁に行われ体系化されたとの説があります。私達もつい最近まで、母親に辛い箇所をさすってもらったり、唾をつけて治したり、お粥と梅干で養生したり、何でも赤チンを塗ったりしたものです。この程度でも十分、治るものは治るのです。もちろん緊急を要する場合はこの限りではありませんが、まずは気持ちよく接触鍼で刺激してみる事です。さらに鍼灸師としては、穴・経絡・虚実・補瀉いわゆる「気」を感じることが大切なのは言うまでもありません。

私の経験では次のような方には特に接触鍼が喜ばれています。

- ・鍼灸受診の初めての方（鍼が怖い・痛そうなどのイメージの改善）
- ・小児鍼（夜泣き・疳の虫・虚弱体質・食欲不振・夜尿症・

持よさを感じれば疲れは溜まりません。その都度微調整ができ大きな病気に移行する可能性も減り、なおよいと思います。身体への取り扱い方法の原理原則を理解すれば自由自在に應用が行えます。つまり自然治癒力は本来万病に対応できるのです。

東洋医学では身体の土台は「丹田（腰）」、心の土台は「気持ちよさ」であること、歪みの少ない調和の取れた状態を「元の気」と書いて「元気」といいます。これを「心身一如」といいます。大切なことは健康よりもむしろ「気持ちよい生活」、いわゆる「元気な生活」ということです。そのため、場合によっては重箱の隅をつつくような科学的、部分的な対応よりも、むしろ気持ちよさを手掛かりに身体全体のバランスを取る、大局を握った対応が功を奏する場面が多々見受けられるのです。皮肉にも現代的な対応で効果が得られず、万策尽

- ・乗物酔い・受験勉強ストレス…)
- ・一般的な鍼灸治療の仕上げの鍼（血行改善による掻痒感の対応に好評）
- ・高齢者のADLの改善や認知症など
- ・県民市民健康祭り、スポーツ大会、災害時ボランティアなど

今後の展望として、費用対効果の高い、エコ医療として、環境負荷の少ない、どのような状況下でも再現可能な医療として、国内はもとより世界中の貧困層を抱える国や地域の援助や医療対策の一環として普及できれば喜ばれるのではないのでしょうか。

「未病治」という医療本来の姿へ、医療への依存から自律への支援へ、気持ちよさを道しるべに、本当に必要な高度医療や高額医療を残すためにも、まずは自然治癒力を呼び起こしてみたいかがでしょうか。

米山式 ディスボーザブル
かっさボード
(100入)
材質：ABS樹脂

※詳しくは中面をご覧ください。

カナケンホームページにて接触鍼の動画がご覧になれます。
オンラインショップ <http://e-kenkou.jp/>

— DATA —

がくえんまえ鍼灸院

〒631-0004
奈良県奈良市登美ヶ丘2-1-10-2
電話：0742-45-9345
瀧川貴啓院長
(社団法人奈良県鍼灸師会 理事)

がくえんまえ鍼灸院 検索

※『もっと活用術』では取材先を募集中です。
HPからも受け付けいたします。
ご感想もぜひ、お寄せください。